

茨城県で3年ぶりに発生した大規模養豚場での豚流行性下痢

茨城県県北家畜保健衛生所

○竹澤詩穂 田邊ひとみ

2024年3月20日に繁殖母豚1,300頭、3月25日に1,200頭、4月17日に2,800頭規模の3農場で哺乳子豚の黄色下痢等がみられ、病性鑑定を実施。PCR及び免疫組織化学染色の結果より、病性鑑定当日または翌日に豚流行性下痢（PED）と診断。対策として哺乳子豚の淘汰を行い、畜舎や車両の消毒を徹底。また、農場内での感染状況を確認するため、経時的に環境中のウイルス検査や母豚及び出荷豚の中和抗体検査を実施し、3農場とも発生から約3か月後には非発生農場へ復帰。ウイルスの由来を探るため、県内で過去に検出されたPEDウイルスのS遺伝子全長に基づく分子系統樹解析を実施。今回発生した3農場のPEDウイルスの塩基配列は100%相同で、過去に同地域で発生したウイルスと近縁であったが、直近に別地域で発生したものと異なるウイルスであることが判明。過去に同地域で発生したウイルスが残存している可能性があるものの、感染源の特定は困難。一方、県内の肥育豚における中和抗体のサーベイランスでは、PED未発生年にも抗体陽性が確認されており、ウイルスの存在を示唆。引き続きサーベイランスによりウイルスの浸潤状況を把握し、県全体での飼養衛生管理の強化を図ることで、発生を未然に防ぐ。